

私の意見

豊商事常務
小林 健



昨年度こそ日本の商品先物市場の出来高は減少しましたが、ここ10年の出来高の増加は目を見張るものがあります。世界的に先物取引をはじめとするデリバティブがこれだけ隆盛になつてきた背景は

いろいろあると思いますが、何と言つても見逃せないのが、決済の迅速化であり、クリアリングハウスの充実に伴う、取引信用の安全性向上です。商取引の発展の歴史は取引信用の安全性をいかに確保するかの歴史でもありました。物々交換、商品引き換え現金払い、小切手払い、約束手形払い、更には貿易取引の荷替手形、またプロジェクトファイナンスなど

クリアリングの機能強化・充実を

不測の事態の連鎖を断ち切る

が考案されました。証拠金をマーケットに変わって保管、管理、監視するのがクリアリングハウスで、このシステムの中枢です。日本でも昨年JCCCH(日本商品清算機構)が設立されて懸案のクリアリングシステムが動き出したことは、わが国商品先物業界にとって画期的なことと

さらに強化充実していただければ素晴らしいと思えます。幾つか思いつくままに挙げますと、①クリアリング会員の財務状況と建玉の監視及び危険水域に入った場合の必要措置の発動、②JCCCHの資本金の増強(5,000億円の預りに対して6億円の資本金は国際水準から見てもいかにも

過小)、③建玉の会員間トランスファーの迅速なルーラ化、④預り金(証拠金など)に対する金利を預け主に返還(国際的には常識)、⑤米ドルなどの日本円以外の預り金(証拠金など)の受入、などです。

自由主義経済においては商品市場がなう役割はますます大きくなります。これに伴って扱う金額も膨大なものになっていきます。この増大する取引信用を完全にマーケット参加者が負担して、なおかつ不測の事態の連鎖を断ち切る仕組みをクリアリングシステムで

顧客アドバイザー制度発足へ

東穀協会、東穀取など協力

東穀協会は東京穀物商品取引所などの協力を得て、今年度、「東京穀物商品取引所顧客アドバイザー(TGA)制度」を発足させる。1クール8回の講習を行い、合格者に日本商品先物取引協会の認定を得て「TGA」

の資格を与える。将来はFP(ファイナンシャルプランナー)のようなものに発展させたいとしている。この制度は同取引所会員である商品取引員の社員を対象に行う。全般的知識として4科目、専門的知識として5科目を受講、各科目ごとに試験を行い、70点を

「全般的知識」 「気象の読み方(清水輝和子日本気象協会気象士)」、「BRICs」特に中国経済の読み方(柴田明夫丸紅経済研究所所長)、「為替相場と世界経済の読み方」(五十嵐敬喜UFJ総研調査部長)、「チャートの読み方」(赤間憲明株式会社新聞社編集委員)。

「専門的知識」 「穀物相場の読み方」(茅野信行ユニバックグレイン代表取締役)、「コーヒーマーケットの読み方」(角谷智博ルカフエ代表取締役社長)、「粗糖相場」(川口勤東京促成青果取締役営業本部長)。

新社長

コムテックスは小椋氏

コムテックスは4月1日付で、小椋洋副社長が社長に昇格、伊藤進社長は副会長に就任した。小椋 洋(おぐら



ひろし) 1992年コムテックス入社、97年取締役、2004年代表取締役副社長。福岡出身 51歳。

して5科目を受講、各科目ごとに試験を行い、70点をメドに合格を判定する。水曜日、木曜日夕刻に各1科目、土曜日に2科目の講義を各1時間半、2週間行う。会場は東穀取の2階会議室の予定。

第1回は7月5日、6日、8日、12日、13日、15日に行う。募集人員は150名。開催は年間3〜5回予定。受講資格は東穀協会加盟の商品取引員の社員になってから1年以上経過した人で、主に登録外務員を対象としている。

第1回の講義内容と講演者(候補は以下の通り(順序不同))

新会社法施行で主務省が詳細に説明

続いて、主務省から会社法整備に伴う商取法施行規則の一部改正による純資産額調書、事業報告書案の様式変更について詳細な説明があった。

主なる変更項目は次の通り。会社法改正により株式会社内の意思決定が弾力化されたことや会計参与制度が導入されたことを踏まえて、商品取引法に基づき主務大臣に提出される書類を改正。

▼会社計算規則の制定に併せて、会員等の純資産額調書、月計残高試算表等を適宜改正。

▼兼業業務及び特定業務の届出に係る添付書類の見直し。

▼商品取引受託業務を廃止。

東京工業品取引所は5月から同取引所上で場している全商品の取引証拠金の算出方法を変更した。

従来は、一定の価格帯を設け、高い価格帯では取引証拠金を多く、低い価格帯では少なくしていたが、これからは過去6カ月間の価格の変動に応じて変更する。

そこで、価格の変動が激しければ、取引証拠金は従来より多くなり、小さければ少なくなることになる。これにより、取引の円滑な遂行を行いたい考え。

なお、新しい取引証拠金への意向は既存の建玉を含めて実施した。

「野菜相場」(野菜相場)、「川口勤東京促成青果取締役営業本部長」。

「野菜相場」(野菜相場)、「川口勤東京促成青果取締役営業本部長」。

「野菜相場」(野菜相場)、「川口勤東京促成青果取締役営業本部長」。

「野菜相場」(野菜相場)、「川口勤東京促成青果取締役営業本部長」。

「野菜相場」(野菜相場)、「川口勤東京促成青果取締役営業本部長」。

「野菜相場」(野菜相場)、「川口勤東京促成青果取締役営業本部長」。

「野菜相場」(野菜相場)、「川口勤東京促成青果取締役営業本部長」。

「野菜相場」(野菜相場)、「川口勤東京促成青果取締役営業本部長」。

「野菜相場」(野菜相場)、「川口勤東京促成青果取締役営業本部長」。

「野菜相場」(野菜相場)、「川口勤東京促成青果取締役営業本部長」。

「野菜相場」(野菜相場)、「川口勤東京促成青果取締役営業本部長」。

「野菜相場」(野菜相場)、「川口勤東京促成青果取締役営業本部長」。

「野菜相場」(野菜相場)、「川口勤東京促成青果取締役営業本部長」。

「野菜相場」(野菜相場)、「川口勤東京促成青果取締役営業本部長」。

「野菜相場」(野菜相場)、「川口勤東京促成青果取締役営業本部長」。

証言・戦後先物史

東京ゴム取引所盛衰記(3)

東京ゴム取引所は世界最大のゴム取引所にならされたが、最初から出来高は多かったのか。間瀬 謙、開所当時は当業者だけだったし、相場の動きも朝鮮動乱後の反動不況で低迷していたため出来高はさっぱりでした。昭和30年に世界的な好況で相場が高騰し、これに注目した仲買専門家の加入が相次ぎ、20近く空きのあった商品仲買人の枠が一気に埋まりましたが、30年代の後半には合成ゴムの発展や米国の戦略備蓄ゴムの放出などで価格がまったく動かなくなり、年間の値動きが10円台、1日の出来高も100枚前後という惨状が7、8年続きました。

廃止論も出た。間瀬 謙、当時、副理事長をしていた大手ゴム問屋の金田信武金田商店社長が理事会で廃止論をぶち、これに鈴木常務理事が反論、大激論になったこともありました。石川理事長が「ゴムの相場商品としての特性を考えると、06年1月末以降でみれば、このままもちあいが続くはずがない」として、存続の断を下しました。

当然、赤字だった。間瀬 謙、開所時は茅場町の四つ角近くの太平商船ビルにいました。昭和37年11月に茅場町

の風呂屋が建てた大湯ビルに移りました。この時、立ち退き料として1,500万円、他に、営業補償金として5年間、毎年300万円もらい、糊口をしのごうができました。当時の年間経費が1,500万円から2,000万円でしたから大きかったです。

出来高が増えるようになったきっかけは。間瀬 謙、昭和43年ごろから世界的な需給改善と国際通貨不安などが重なり、久々にゴム価格が高騰したことです。専門商品仲買人がゴム市場に大衆玉を積極的に導入し、その後も強弱材料が錯綜したため、出来高は激増し、市場規模は著しく拡大しました。

取引所も移転した。間瀬 謙、東京砂糖取引所が小網町のビルを改装し、「入って欲しい」というので、1、2階に移りました。昭和42年8月のことです。その結果、東京穀物商品取引所とも近くなり、場立ち(市場代表者)が3つの取引所をぐるぐる回ることになったことも大きく影響しました。鈴木常務理事が「やはり場所が大切だね」と言ったほどです。東京砂糖取引所には「ひさし」を貸して母屋をとられたと愚痴られました。

初代理事長石川昇一氏(左)と専務理事鈴木正武氏

専務理事が「やはり場所が大切だね」と言ったほどです。東京砂糖取引所には「ひさし」を貸して母屋をとられたと愚痴られました。

専務理事が「やはり場所が大切だね」と言ったほどです。東京砂糖取引所には「ひさし」を貸して母屋をとられたと愚痴られました。

専務理事が「やはり場所が大切だね」と言ったほどです。東京砂糖取引所には「ひさし」を貸して母屋をとられたと愚痴られました。

売買少なく存亡の危機も

間瀬 謙、当時、副理事長をしていた大手ゴム問屋の金田信武金田商店社長が理事会で廃止論をぶち、これに鈴木常務理事が反論、大激論になったこともありました。石川理事長が「ゴムの相場商品としての特性を考えると、06年1月末以降でみれば、このままもちあいが続くはずがない」として、存続の断を下しました。

当然、赤字だった。間瀬 謙、開所時は茅場町の四つ角近くの太平商船ビルにいました。昭和37年11月に茅場町

の風呂屋が建てた大湯ビルに移りました。この時、立ち退き料として1,500万円、他に、営業補償金として5年間、毎年300万円もらい、糊口をしのごうができました。当時の年間経費が1,500万円から2,000万円でしたから大きかったです。

出来高が増えるようになったきっかけは。間瀬 謙、昭和43年ごろから世界的な需給改善と国際通貨不安などが重なり、久々にゴム価格が高騰したことです。専門商品仲買人がゴム市場に大衆玉を積極的に導入し、その後も強弱材料が錯綜したため、出来高は激増し、市場規模は著しく拡大しました。

取引所も移転した。間瀬 謙、東京砂糖取引所が小網町のビルを改装し、「入って欲しい」というので、1、2階に移りました。昭和42年8月のことです。その結果、東京穀物商品取引所とも近くなり、場立ち(市場代表者)が3つの取引所をぐるぐる回ることになったことも大きく影響しました。鈴木常務理事が「やはり場所が大切だね」と言ったほどです。東京砂糖取引所には「ひさし」を貸して母屋をとられたと愚痴られました。